

みてみて

発行／2021年3月24日
播磨町社会福祉協議会
ボランティアセンター
〒675-0147
播磨町南大中1-8-41
☎079-435-1712

「播磨町ボランティア連絡会」が開催した 研修会の模様をご紹介します!!

「地域について思うこと」をテーマに、社協生活支援コーディネーターの進行で、『助け合い体験ゲーム』などを通して意見交換をおこないました。(開催は令和2年の秋でした)

今回の研修は「改めて地域に目を向けてみよう」という発想から企画されました。思い思いに語る皆さんのお話を側で聞いていると「〇〇したらええんちゃうん!」という言葉が至るところから聞こえてきます。

こんなお声がありました。



こんな地域だったらいいな

- ・長生きしても住みたい町
- ・声をかけやすい
- ・明るい挨拶ができる町
- ・子どもたちの笑顔
- ・自分たちのことを良く知っている人たちがいる地域
- ・自治会の活性化
- ・買い物が便利
- ・近所の方とお茶
- ・気軽に相談できる
- ・老若男女あいさつができる町
- ・安心な地域
- ・思いやりのある地区
- ・五軒両隣と仲良くできる
- ・在宅介護の充実した町
- ・先住人と後から入ってきた方を差別しない
- ・みんなが声かけができる町
- ・お年寄り子どもたちのふれあい

～私たちが暮らす10年後の目指す理想の地域像に向けて～ これから私(私たち)ができること

- ・繋がります
- ・どんな方にも声かけができるよう挑戦したい
- ・みんなが楽しく集まれるような地域づくり
- ・いろいろな人に声かけをする 自分が健康でいる
- ・お互いに助け合える町づくり
- ・子ども、年寄りに寄り添える生活!
- ・誰にでも楽しく声をかけ皆を元気にしたい
- ・周りに気を配り、困っている人や事などに少しでも手助けできれば良いと思う
- ・自分がその立場になった時は気持ちを伝えられるように



改めて、皆さんがいつも目には見えないアンテナを立てて、地域の「今」の状況をたくさん受信されていて、温かい目で受け止めているように感じました。そして、楽しく優しい言葉に換えて発信し合うことで、目には見えないつながりが生まれるようにも感じました♪

のぎく

- ①視覚障害者を対象とした広報誌などの朗読活動
- ②毎月24～26日 第2水曜日 午後

手話サークル はりま

- ①体験学習等を通じた手話の普及活動
- ②毎週火曜日 午後

木曜会

- ①「ゆうあい園」の活動支援
- ②第3木曜日 午後 其他依頼に応じて

点訳ボランティア ほほえみ

- ①視覚障害者への点訳支援活動、其他啓発活動
- ②第1・3月曜日 第2土曜日 いずれも午後 ほか点訳依頼に応じて

トウインクル

- ①おもちゃルーム「きらきら」での親子支援活動
- ②第1木曜日 第3土曜日 いずれも午前

スイトピー

- ①「ゆうあい園」の活動支援・高齢者施設への訪問活動 他
- ②第2・4金曜日 午前 其他依頼に応じて

地活会

- ①高齢者施設等での支援活動
- ②施設の行事など 其他依頼に応じて

要約筆記 ひまわり

- ①聴覚障害者・難聴者の、耳の聞こえにくい方への要約筆記活動
- ②隔週火曜日 午前 其他 依頼に応じて

播磨町ボランティアセンター 登録グループ一覧

※①活動内容 ②活動日 <<令和3年3月時点 順不同>>

日本語教室 はりま

- ①外国人に日本語を教える活動
- ②奇数月 第1月曜日 其他 生徒と相談

はりま藤の会

- ①帯舞、帯の変わり結び等による施設への訪問活動
- ②第1・3木曜 午前 依頼に応じて

ライフケア なでしこの会

- ①高齢者ミニデイサービス
- ②第1・3水曜日 午前～

ほうれんそう

- ①ほっこりできる場所「そよかぜひろば」の運営
- ②毎月第1・3・5木曜 午後

ハンドベル・ アンサンブルの会

- ①町内施設等でのハンドベル演奏の訪問活動
- ②第1・3火曜日 依頼に応じて

播磨マジッククラブ

- ①施設等でのマジックショーによる訪問活動・「いきいき体験隊」での子どもたちへのマジック指導
- ②第2・4土曜日 午後 其他依頼に応じて

ガールスカウト 兵庫県第26団

- ①募金活動、高齢者施設への訪問活動等
- ②依頼に応じて

ボランティア K・W・H

- ①気軽に笑って話せる「みんなのカフェ」の運営
- ②毎週水曜日 午前・午後

登録グループとそのメンバーの皆さんには、その他社協の行事にもご活躍いただいています。各グループの活動内容について詳しく知りたい方や、活動依頼を希望する団体など、随時、ご相談受付中です！すでに活動中のボランティアグループについても、登録に関するご相談お待ちしております!!

お問合せは、播磨町ボランティアセンター TEL：079-435-1712 まで

兵庫県くすのき賞受賞!!

播磨町を中心に活動する「ガールスカウト兵庫県第26団」の皆さんが、ボランティアなどを通して、こころ豊かな地域社会づくりに貢献している団体へ贈られる「兵庫県くすのき賞」を令和2年に受賞されました。皆さんは、高齢者施設の訪問や募金運動、防災啓発活動などに幅広く取り組んでいます。おめでとうございます!今後も応援しています。



ボランティア活動保険 加入受付中

(ボランティア市民活動災害共済)

～ボランティア活動中のものために～

令和3年度分(補償期間4月1日～翌年3月末)受付中です!年度単位で加入手続きが必要です。

お申込み・お問合せは 播磨町社会福祉協議会へ ☎ 079-435-1712

播磨町在住の視覚に障害のある方(要登録)に対し、広報誌を「声」で届けるボランティア活動があります。設立から30年が過ぎた「朗読ボランティアのぎく」が、この活動を長年に渡り担っています。

「声」の広報事業では、視覚に障がいのある方や、その他、病気等の理由により目が見えにくい方に向けて、毎月、町内に全戸配布される「社協だよりゆう&あい」や、「広報はりま」などの各広報誌を朗読してパソコンに取り込み、専用のソフトで編集した音声データをCDに取り込み郵送しています。

朗読活動は、毎月発行日、本番に取り掛かりますが、メンバーそれぞれが担当するページの割り振りや、読み方の工夫などは各自事前に準備を行い、当日に臨みます。目で見た時にわかりやすいように使われている図やグラフは、朗読する時には工夫が必要です。多種多様な誌面の情報をわかりやすく聞くことができるように、グループで長年の経験を集約し、独自のマニュアルを作成して活動に活かしています。

「情報保障ボランティア」とも言われる朗読の活動。誌面での文字や絵などの情報だけでは、目で見ることができない人にとっては「得ることができない」情報となります。「のぎく」の皆さんの「声」は、毎月必要としている人たちに支援の手として差し伸べられています。

Message

リスナー(利用者)さんの声

「毎月、ありがたいな、助かるなと思っています。」
 「ぜひ長く継続してほしいです。」
 「いつも大助かりで感謝しています。」
 「コロナ禍での朗読、大変だと思います。本当に感謝です。」



福祉しあわせセンターの一室にある録音ブース(マイクが本格的!!)



令和3年度に朗読ボランティア講座を開催予定です。詳細が決まりましたらホームページ等でお知らせしますので、ぜひチェックしてください。音声データは、社協及び播磨町のホームページで、どなたでも聞くことができます!

声を届ける声は大きな「声」の広報事業「朗読ボランティアのぎく」

ボランティアセンターに登録する有志のグループ同士がつながって「播磨町ボランティア連絡会」を立ち上げ、普段のそれぞれの活動に活かすために情報交換や研修など自主的に活動中です。今年度の会長さんが一年をふりかえり書き綴ってくださいました。

「相手の心に寄り添いたい」

播磨町ボランティア連絡会 会長 山崎 康代

ボランティア活動を始めて12年。そんな中「ボランティア連絡会」の会長を二度経験し、初めは「なにもわからないのに」と悩んでいた私がいろいろな人と出会い、「播磨町地域自立支援協議会」等の会議や研修に出席する中、数多くの今まで知り得なかった事を知る機会となり、感謝するとともに、この経験を活かしていきたいと思うようになりました。

本年度のボランティア連絡会が始まった4月より、例年の行事は縮小せざるを得なくなり、代表者が集まり近況報告ができたのは7月になってからのことでした。10月には研修会として、「これからの地域」について話し合い、「特技を活かしている」、「自らが楽しんで参加している」といったグループの強味を再確認したり、長く続ける工夫については「月一回は話し合う」、「絶対無理しない」などの意見を交わしました。明るい皆さんの人柄が印象的で、改めて、共感できる仲間の存在は心強かったです。

私が所属するグループの話ですが、先日、加古川の傾聴ボランティアグループを見学させていただきました。お一人暮らしのお宅や介護施設を訪問し、決められた時間帯で一緒に話し寄り添うという訪問活動をされている方たちの体験を聞き、注意すべき点などを勉強させていただいたことで、今後は、「見守り推進ボランティア」として何ができるのか考えていきたいと思っています。

話しは変わりますが、ある方のホッと話す話を読みました。

『全盲になった男の人がバスで通勤する途中、その人に地元の小学生が10年以上さりげなく声をかけ支えている。全盲の男の人でも何気ない会話が楽しみになった。』という内容でした。児童達の優しい心が伝わっているのだと思います。

私は、自分の目の前の人にどんな声をかけることができるだろうか……。思いやりを持って相手の心に寄り添いたいものです。

沖縄に、「片手さーねー音ー出じらん」という言葉があるそうです。「片手では音が出ない」という意味だそうです。二つの手があって初めて拍手ができる。協力する人がいてこそ物事は成し遂げられるということです。一人の力では何もできない。これからもボランティアという形で、皆と力を合わせながら明るい町にしていきたいと思っています。



～ボランティアセンター事務局より～

度々事務所にも足を運んでくださり、「いろんな人の話を聞けることがやっぱり楽しいね!」と語る山崎さん。いつもパワーをいただいていた。

ボランティア連絡会としては、コロナ禍で、例年より、思うように交流を図ったり、情報交換をする機会を持つことができにくい時期が続いたのですが、そんな中でも、役員の方々は知恵を持ち寄り、「何かできることを」と、模索しておられました。そんな姿を側で見させていただきながら、できる範囲で、意見を交わし合う場を持ち、みんなで一緒に力を合わせて向き合おうとする皆さんはとても温かく、力強かったです!